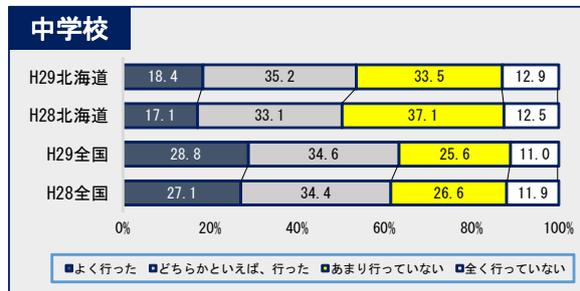
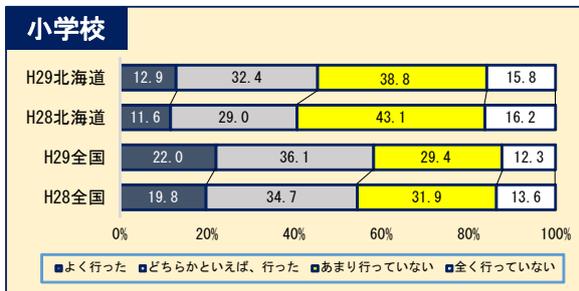


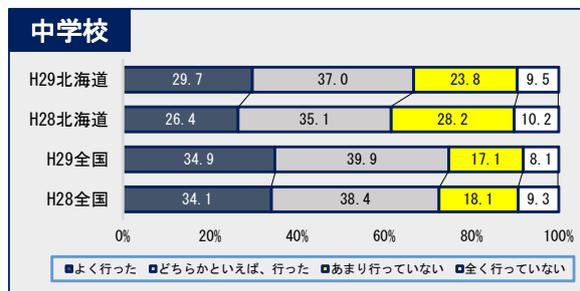
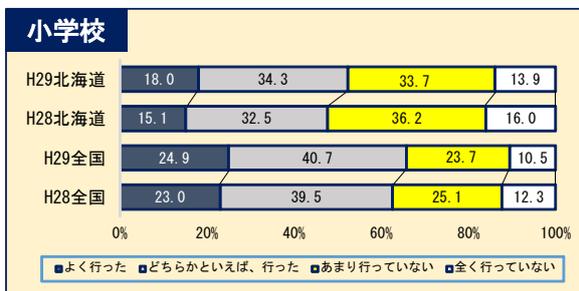
4 小学校と中学校が連携した取組の方向性

小学校と中学校の連携した取組に関する状況 [学校質問紙の全国との比較]

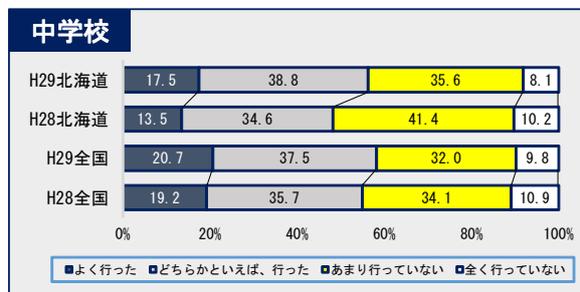
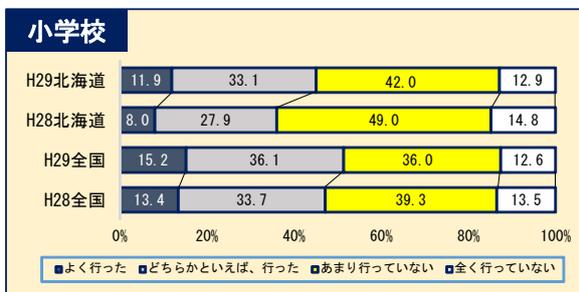
「近隣の中学校（小学校）と、教育目標を共有する取組を行いましたか」



「近隣の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」



「近隣の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」



「近隣の中学校（小学校）と、教育目標を共有する取組や合同研修、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」という質問に対し、「よく行った」と回答した学校の割合が、昨年度と比べて高くなっているものの、全国を下回るなど、小学校と中学校の連携した取組が十分に行われていない状況が見られます。

このことから、小学校教育と中学校教育を円滑に接続させるために、次のような取組の充実を図ることが大切です。

- 学校運営協議会や地域学校協働本部等の各種会議の合同開催を通じて、各学校で育成を目指す資質・能力や教育目標、それらに基づく教育課程編成の基本方針などを、学校、保護者、地域間で共有して改善を図ること。
- 校長・副校長・教頭の管理職の間で、各学校で育成を目指す資質・能力や教育目標、それらに基づく教育課程編成の基本方針などを共有し、改善を図ること。
- 教職員の合同研修会を開催し、地域で育成を目指す資質・能力を検討しながら、各教科等や各学年の指導の在り方を考えるなど、指導の改善を図ること。

教育目標の共有

目指す子ども像の設定

- 教育委員会職員や学校職員等による合同の学習会において、各種調査結果の分析を基に課題を明確にするとともに、学校、家庭、地域、教育委員会等が一体となり、小中一貫教育を推進できるよう「小中一貫教育で目指す人間像、学校像、児童生徒像、地域像」を設定し、基本方針に位置付けています。

【小中一貫教育で目指す「人間像、学校像、児童生徒像、地域像」等（一部抜粋）】

目指す人間像：社会を背負う、世界にも通用する「知・徳・体」を備えた人		
目指す学校像	目指す児童生徒像	目指す地域像
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な学年移行が可能となる学校 ・その学年で身に付けるべき力を全員に付けさせることができる学校 ・地域や保護者の思いが生かされ共に歩める学校 ・魅力が体感できる環境の下、先進的な取組を進める学校 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望を実現するために努力し、行動できる子ども ・自分を大切に、人を大切に、未来を見つめ〇〇町を大切にできる子ども ・未来の〇〇町を支える健全な心身をもつ子ども ・積極的に人間関係を築く力をもつ子ども ・自分の考えを自分の言葉で表現できる子ども 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が町づくりの核である地域 ・家庭教育や学校教育を支援し、共に育む環境のある地域 ・子どもたちと人々の心温まるふれあいのある地域 ・地域の誇りや愛着の心を子どもたちに伝えていく地域 等



【保護者・地域住民への説明】

- 基本方針や各小・中学校の取組を、保護者や地域住民に説明する機会を設けたり、教育委員会ホームページに掲載したりするなど、小中一貫教育の意義や目的、取組等を発信し、家庭や地域と目指す姿を共有しました。

【学校、家庭、地域が一体となった教育の推進】

- 保護者や地域の方も学校運営に参画するコミュニティ・スクールの導入により、地域ぐるみで義務教育9年間の学びを支える仕組みをつくります。

学校、家庭、地域と一緒に活動することで、保護者と地域住民のつながりが強まります。また、保護者や地域住民の学校への理解が深まり、家庭や地域の教育力が向上し、子どもの学力向上にもつながっていきます。

各教科等の指導の工夫・改善

相互乗り入れ指導

- 各学校の状況の把握
小・中学校の校長が、学校のニーズや教員の配置状況等の情報を交流するとともに、小・中学校における相互の乗り入れ指導の実施について検討しました。

<小学校の状況>

- ・高学年の児童に算数や理科の専門的な指導を受けさせたい。
- ・書写専門の教員がいる。

実施できそうな教科

- 小学校「理科」
- 中学校「書写」

<中学校の状況>

- ・書写の専門的な指導を受けさせたい。
- ・理科担当の教員の日程などを調整できる。

- 兼務発令の申請
教育委員会を通して、北海道教育委員会に兼務発令を申請しました。

- 相互乗り入れ指導の計画の立案
小中連携コーディネーターは、関係する教員の日程などを調整しました。その後、関係する教員は、留意事項を確認し、相互乗り入れ指導の計画を立てました。

指導に当たっての留意事項

- ① 事前打合せの調整等
- ② 指導者、指導対象学年
- ③ 教科（単元・題材）
- ④ 指導内容（範囲）、評価
- ⑤ 実施時期、時間
- ⑥ 指導体制（ティーム・ティーチング、後補充等）
- ⑦ 保護者等への周知

相互乗り入れ指導の実際

- ・小学校の6年担任教諭による中学校1年生2クラスへの乗り入れ指導
→実施状況 6月：書写（楷書体：計2時間）、12月：書写（行書体：計2時間）
- ・中学校の理科担当教諭による小学校6年生2クラス及び理科クラブへの乗り入れ指導
→実施状況 7月：理科クラブ（1時間）、12月：理科（計6時間）

小中合同による研修会の実施

小中合同研修の実施

- 1回目の合同研修で、小・中学校の教員が話し合い、そこで出された意見をもとに、3か年の研修を計画しています。
 - ・実施回数：年間14回
 - ・内 容：研究主題に関わる研修、教科部会、専門部会

【研究主題に関わる研修】

研究主題
仲間と関わり合い、粘り強く課題に取り組む子の育成
～小中共通の問題解決的な学習を通して～

<3か年計画>

1年目：小中授業スタイルの統一

- ◎my・our・My Time
(個人思考⇒集団解決⇒個人思考)
- ◎見通し掲示板の活用と単元計画表
(学習の見通しを示す)
- ◎ふりかえりの統一(スクーリング)

2年目：主体的な学びの質の向上
3年目：対話的な学びの質の向上

【教科部会】

- 7つの教科部会を構成し、新学習指導要領を踏まえた指導計画づくりに向けた準備を行います。

教科部会

国語、算数・数学
理科、社会、音楽
体育、英語

- 乗り入れ指導が効果的な単元や小・中学校で共通して指導する事項の確認など、年度ごとに重点を設定して取り組みます。

【専門部会】

- 3つの部会を構成し、必要な事項について協議します。

◇カリキュラム部会：総合的な学習の時間のカリキュラムの編成(ふるさと教育を基盤としたキャリア教育のカリキュラムを編成)

◇生徒指導部会：児童生徒が交流する取組の企画、学校生活のきまりの作成、小学校6年生の中学校登校日に合わせた企画(生徒会が中学校登校日を利用し、6年生との交流を企画)

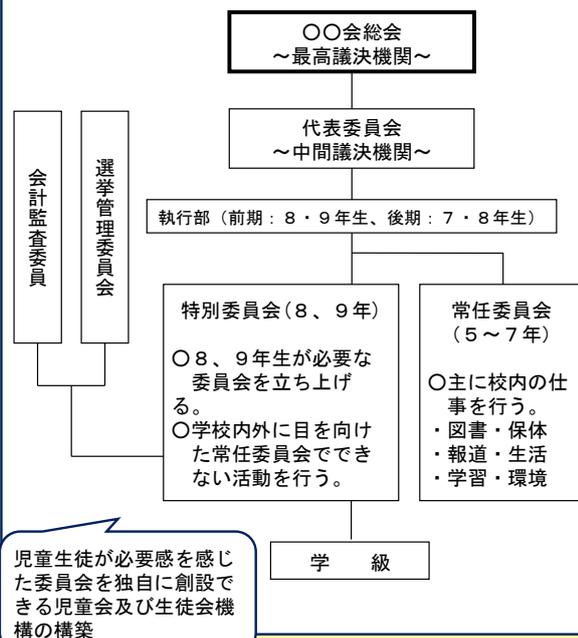
◇健康部会：生活のきまりの冊子の製作・啓発、小中の合同運動会の立案(実務者会議で検討)

教育課程に関する共通の取組の推進

スタンダードの策定

- 学習活動を効果的・効率的に実施するとともに、子どもたちが安心して学べる学習環境を学年段階・学校段階を超えて安定的に確保するよう工夫しています。

生徒会・児童会活動



家庭学習のてびき



「学習のてびき」を活用した学習習慣の定着

〇〇学校スタンダード会議

誰が参加しても、どの学年で行ってもよい会議で、生徒指導や生活指導、学習規律、行事の確認など、ざっくばらんに話し合う時間です。

- ◇ 1～6年生担当者〇〇学校スタンダード会議：毎週月曜日 16:15～
- ◇ 7～9年生担当者〇〇学校スタンダード会議：隔週水曜日 16:15～

学校の課題は、混ざること。小中の文化やにおいがそれぞれに主張していると、あちこちで『いずさ』を感じます。〇〇校長曰く、「もともと違う文化の校種が一緒になるのだから、水と油のようなもの。よく混ぜておいしいドレッシングを作ることが大事。でも、放置しておけばまた水と油に分離してしまう」。児童生徒のためにも、よりよい学校づくりのためにも、そうならないようにとの思いもあり、先生方が中心となって立ち上げた会議です。

学年間の連携を図る打合せ会議「〇〇学校スタンダード会議」の設定により、共通理解を深め、指導の一貫性を確保